



世界脳週間 2022 報告書

将来を担う若者を主な対象として
脳科学の重要性を啓発する活動の報告

主催 特定非営利活動法人 脳の世紀推進会議
共催 国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター
公益財団法人ブレインサイエンス振興財団
協力 日本神経科学学会
日本神経化学会
日本神経回路学会

支援 脳の世紀推進会議賛助会員

(株)ATR-Promotions/(株)NTTデータ経営研究所/(株)サントリーウェルネス健康科学研究所/(株)ショーシンEM/(株)大日本住友製薬/(株)地球快適化インスティテュート/(株)成茂科学器械研究所/(株)ニコソリューションズ/(株)日清食品ホールディングス/(株)日立製作所/ミズノ(株)/エーザイ株式会社



Contents

P.02	世界脳週間2022企画の経緯及び開催趣旨
P.03	我が国における実施期間及び全国開催イベント一覧
	各地でのイベント報告
P.04	01 世界脳週間2022 夏休み 高校生理科教室「脳の不思議に迫る」
P.06	02 第38回せりりけん 市民講座 世界脳週間2022
P.08	03 世界脳週間2022 広島イベント
P.10	04 玉川大学中高生脳科学教室
P.14	05 世界脳週間2022 (東京都医学研) 講演会
P.15	06 世界脳週間2022 東京医科歯科大学講演会
P.18	07 世界脳週間2022 @国立精神・神経医療研究センター
P.21	08 世界脳週間京都講演会
P.22	09 世界脳週間2022 東北大学サイエンスカフェ
P.23	10 世界脳週間2022 新潟講演会 ‘見てみようヒトの脳と心’
P.24	世界脳週間2022を終えて

世界脳週間2022

企画の経緯及び開催趣旨

脳科学は今世紀最重要研究領域の一つであり、また認知症を初めとする精神神経疾患の新たな診断・治療法の開発、さらにはロボットや人工知能など社会に強いインパクトを与える科学技術イノベーションのためにも極めて重要なサイエンスです。この現代社会における脳科学の重要性は国際的にも広く認識され、将来を担う若者を主な対象として公開講演会、病院や研究所の公開、体験学習などの行事を展開する「脳週間」イベントが1992年に米国で開始されました。それに呼応して、1997年から欧州においても「脳週間」イベントが実施され、2000年からは国際脳研究機構やユネスコの後援を受け、「世界脳週間」と銘打った世界的な行事になりました。我が国もこの「世界脳週間」活動の意義に賛同し、NPO「脳の世紀推進会議」が主体となり、知識欲旺盛な高校生を主な対象として2000年より参画しています。そのため、毎年、我が国の脳研究の中心的研究センターである国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センターを含め全国10～18か所で講演会、研究室の公開、体験学習会などのイベントを行ってきました。

2021年度は日本全国十数か所で開催予定でしたが、前年度からのコロナ禍が終息せず中止せざるをえない地区があり結局10か所で開催しました。このような困難な状況でも開催した地区では高校生を含め多くの参加を得、活発な質疑応答もあり、成功裡に行事を開催することができました。2022年度は未だコロナ禍が遷延し依然として困難な状況でしたが、上記のように前年度の成功体験を基に日本全国10地区で開催を企画しました。本報告書はこの10地区における世界脳週間2022イベントの報告を纏めたものであります。

我が国における実施期間及び 全国開催イベント一覧

実施期間

世界脳週間は米国では2022年は3月14日から20日までとし、この週に種々行事を展開したが、わが国では主な対象である高校生の都合に合わせて実施期間を柔軟に設定した。

開催イベント一覧

01. 世界脳週間2022 夏休み高校生理科教室「脳の不思議に迫る」

開催日：2022年8月5日（金）オンライン開催

開催機関：国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター（和光市）

02. 第37回せりけん市民講座 世界脳週間2022

開催日：2022年7月23日（土）オンライン開催、YouTubeライブ配信

開催機関：大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所（岡崎市）

03. 世界脳週間2022 広島イベント

開催日：2022年8月7日（土）対面とオンラインのハイブリッド開催

開催機関：広島神経科学研究会（広島市）

04. 世界脳週間玉川大学イベント「中高生脳科学教室2022」

開催日：2022年11月6日（日）対面とオンラインのハイブリッド開催

開催機関：玉川大学脳科学研究所（町田市）

05. 世界脳週間2022 講演会「意欲（やる気）」を生み出す脳の仕組み

開催日：2022年11月28日（月）対面開催

開催機関：公益財団法人東京都医学総合研究所（東京都世田谷区）

06. 世界脳週間2022 東京医科歯科大学講演会

開催日：2023年1月7日（土）オンライン開催

開催機関：東京医科歯科大学脳統合機能研究センター（東京都文京区）

07. 世界脳週間2022 @国立精神・神経医療研究センター

開催日：2023年2月18日（土）オンライン開催

開催機関：国立研究開発法人精神・神経医療研究センター（小平市）

08. 世界脳週間2022 京都講演会

開催日：2023年3月10日（金）対面開催

開催機関：京都神経科学グループ（京都市）

09. 世界脳週間2022 サイエンスカフェ

開催日：2023年3月21日（火）対面開催

開催機関：東北大学脳科学センター（仙台市）

10. 世界脳週間2022 新潟講演会“見てみようヒトの脳と心”

開催日：2023年3月24日（金）オンライン開催

開催機関：新潟大学脳研究所（新潟市）

01

世界脳週間2022

夏休み高校生理科教室 「脳の不思議に迫る」



講演ポスター画像

開催イベント情報

テーマ	世界脳週間 2022 夏休み高校生理科教室 「脳の不思議に迫る」
日時	2022年8月5日(金) 14:00-15:30
会場	zoomによるオンライン開催
主催	国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター (CBS)
代表	センター長 影山龍一郎

開催時期の選定理由

高校生が参加しやすく、高等学校の既存行事とできるだけ重ならない夏休み期間中を選び例年8月の第1週に開催している。今回は新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえオンラインで開催した。

集客方法 (広報先等)

- ① 理研ウェブサイトイベントページに掲載
- ② 脳神経科学研究センター (CBS) ウェブサイトイベントページに掲載
- ③ CBS Facebook
- ④ CBS Twitter
- ⑤ CBS Instagram
- ⑥ 夏休み高校生理科教室ポスターを全国の Super Science High School (SSH) に郵送

プログラム

2022年8月5日(金)	
13:30-14:00	受付
14:00-14:05	開会の挨拶 (影山龍一郎センター長)
14:10-14:30	講演 「脳科学から、睡眠の謎に迫る」 玉置應子チームリーダー 認知睡眠学理研白眉研究チーム
14:30-15:00	質疑応答
15:00-15:30	アンケート記入、解散

開催趣旨

脳について脳が考える日、世界脳週間を知っていますか？
「世界脳週間」とは、脳科学の科学としての意義と社会としての重要性を一般に啓もうすることを目的として世界的な規模で行われるキャンペーンです。理化学研究所 脳神経科学研究センターでは夏休みに高校生を対象とした脳の不思議に迫る理科教室をオンラインにて開催いたします。

アンケート結果／参加者コメント

- ・まず講演して下さった先生が文系の大学生で、そこから理系になったというのが私にとって衝撃でした。いま私はやりたいことがたくさんありすぎて、理系か文系か迷っています。でも、同じテーマでもアプローチの仕方を変えたりすることでどんな道を進みたいかを選べるんだと知れて嬉しかったです。講演の内容で印象に残ったことは、オットセイの睡眠で、右脳と左脳を半分半分で使い分けて寝ることが出来るということです。イルカでそのような睡眠をするという話を聞いたことがありましたが、他にもそのような睡眠を取る生物がいるというのが興味深かったです。そういった動物は常に泳ぐなり飛ぶなりしていなければならないものが多いですが、人間も後天的にできるようになったら面白いなと思いました。
- ・謎が多いとされる睡眠について理解を深めることができました。特に N3 の話が面白かったです。
- ・とても楽しかったです。ご自身の体験が今の研究につながった話を聞いて、「研究」というものが少し身近に感じられるようになりました。ありがとうございました！
- ・睡眠の大切さや夢について知ることができて楽しかったです。レム睡眠のお話が複雑で難しかったです。
- ・みんなの考えることが思いつかないような素晴らしい発想ばかりでただただすごいなと思いました。ショートスリーパーやロングスリーパーというのが確かにほんとに何かしらの定義があってそういう人がいるのかとか、それが科学的根拠を持っているのかなど、気になることがたくさんありました。また、第1夜効果について、何度

も新しい環境などストレスのある環境で睡眠を取った場合、第1夜効果が小さくなるということで、自分だったらそうはならないなと思ったので、キャンパーの話はとても興味深かったです。

- 睡眠についての幅広いお話や、実際にあった研究中の面白いエピソード、さらには進路に繋がるお話が聞けて、参考になる話がたくさんありました。
- 皆から、自分からは出なかったけど確かに言われてみると気になる質問が多く出ていたので面白かったです。あと、先生が「非常に良い質問ですね」とおっしゃってくれと、自分の質問でなくてもなんだか嬉しくなりました。より深く考えることができました。ありがとうございます。
- 少しでも脳科学についての知識を入れた状態で話を聞くべきでした。先生がおっしゃっていた「変化を起こして飛び込む」はとても心に刺さりました。何か興味、関心があったら先生の言葉を意識していこうと思いました。今後は、睡眠以外にも、勉強と脳の繋がりなどの講義があったら聞いてみたいです。
- 大変興味深い講義で1時間ほどがあっという間でした。ありがとうございました。
- 脳という未開の地に興味を抱いて参加した今回のイベントでしたが、その片鱗をのぞいてみるとさらに深く感じられ、もっと興味がわきました。とてもいい経験でした。ありがとうございました。
- また高校生などの脳科学に関心を持つ学生を対象とした講演を行なってほしいです。その時はいくつかの研究テーマや脳科学の中分野を紹介し、教えていただけると知識や視野が広がるなと思いました。
- イベント時間が短かったので気軽に参加することができました。質問では研究者の方の個人的な出来事のお話を聞けて興味深かったです。イベントを開いていただきありがとうございました。
- とても有意義でした。2、3倍の時間でも私だったら参加します！メモも沢山とれて、後でまとめるのが楽しみです！

イベントを終えて

今年もコロナの影響から、2021年に続き夏休み高校生理科教室はオンラインで開催の運びとなりました。あっという間に30名の事前登録枠は埋まり、人数を引き上げて予約を受け付けました。

最初に、影山龍一郎 センター長からのあいさつで開会し、続いて認知睡眠学理研白眉研究チーム 玉置應子チームリーダーによる講義「脳科学から、睡眠の謎に迫る」がありました。英語を用いたスライドなど、少し難しいところもありましたが、玉置チームリーダーの実体験を基にしたキャリアや研究の話は面白く、講演の時間が短く感じられました。続く質疑応答では挙手はもちろん、オンラインならではのチャット機能を使って質問をつのると時間が足りないほどたくさんの質問ができました。玉置チームリーダーの丁寧な回答に納得したり、追加の質問が出たり。予定を20分程度オーバーして充実した質疑応答の時間となりました。質問に参加しなかった参加者も、同年代の参加者が質問する姿や研究者の回答内容などにいろいろ感じるものがあつたようです。事後アンケートでは楽しかった、勉強になったなど好意的な意見が並び、オンラインでの講演は今年も大成功に終わりました。また、オンラインでのイベントを歓迎しつつもやはり実地で見学したいという意見が見られました。早くこの状況が好転して、来年度以降またオンサイトでのイベント開催を計画できるようにしたいと思いました。その一方、今回はオンラインでの開催だったので全国のSSHにイベントの開催連絡をしましたが、普段は理研に足を運べない遠距離に住む高校生の参加もありました。オンラインならではの、距離にとらわれない参加スタイルのメリットを感じたことから、次年度以降はオンサイト、オンラインでのハイブリッド開催などを考えていく必要もありそうです。

参加者数と内訳

合計 高校生 34 名

02

第38回せいりけん市民講座
世界脳週間2022

講演ポスター画像

開催イベント情報

テーマ	脳の不思議とサイエンス 「ウイルスってどんな形？」
日時	2022年7月23日(土)
会場	オンライン
主催	生理学研究所・岡崎市
代表	西尾亜希子

開催時期の選定理由

岡崎高校・刈谷高校と連携して行うため、学校側の都合の良い時期に設定した

集客方法（広報先等）

HPやSNSを使った告知のほか、全国のSSH校にチラシ発送を行った。

プログラム

13:00—	生理学研究所 村田特任教授による講演
13:40—	岡崎市保健所による手洗い講座
13:43—	岡崎高校・刈谷高校の学生と村田特任教授による座談会

開催趣旨（ポスター等に掲載した開催趣旨文等）

ウイルスはとても小さいので、直接目で見ることはできません。

電子顕微鏡という特殊な顕微鏡を使って初めて観察することができます。毒々しいかたちのものもありますが、多くは宝石のような美しいかたちをしています。これら様々なウイルスのかたちを紹介するとともに、その成り立ちについてもお話ししたいと思います。

イベントを終えて（主催者側の感想或いは総括）

せりけん市民講座は、例年岡崎市保健所と連携し、保健所内のホールで講演を行ってきた。今回で38回を迎え、毎回満員となる人気講座だが、今回は感染症拡大防止のため、去年に引き続きYouTube Liveを用いた生配信を行った。今年は「ウイルスってどんな形？」をテーマとして、生体分子構造研究部門の村田和義特任教授が講演を行った。コロナ禍でウイルスという存在を強く意識する現在、改めてウイルスとは何かという基本的な内容から、様々なウイルスの形や、どうしてそのような形になったのかなどについて紹介した。最新の研究をおりませつつも、ウイルスと生物との境界線や、これまでのウイルスの概念を覆す巨大ウイルスの存在について解説を行い、「生命とは何か」という大きなテーマを問いかける興味深い講演となった。

講演の後には、岡崎市保健所が作成した手洗い指導の動画を放送した他、岡崎高校・刈谷高校の学生と村田特任教授による座談会の生配信も行った。学生には事前に参考図書を紹介した他、研究室見学を行い、最新の300kVクライオ電子顕微鏡や解析ソフトについて村田特任助教から解説を行ったこともあり、座談会ではレベルの高い質問が寄せられた。また、学生だけでなく生配信を視聴する一般の方からのチャットでの質問も非常に活発であったことも印象的であった。ウイルスの脅威にさらされる世の中ではあるものの、これまでウイルスと共存してきた歴史や、人間にとって有用なウイルスが存在することなど、ウイルスについての多面的な見方を提示する座談会となった。

過去3年オンラインで開催しているが、年々チャットでの質問が活発になっており、視聴者数も増えてきている。今後もオンライン配信の強みを生かしつつ、全国の学生に生理学の魅力を伝えていきたい。

当日の会場風景等



講演の様子



座談会の様子



事前見学の様子

参加者数と内訳

当日再生数 :336 回、アーカイブ再生数 1120 (2023 年 2 月
1 日現在)

03

世界脳週間2022 広島イベント

開催イベント情報

テーマ	「脳とこころの科学はおもしろい！」 広島大学医学部公開講座「先端医療は今 —広島から世界へ」と合同開催
開催機関	広島神経科学研究会
日 時	2022年7月30日（土）13時30分より 16時30分まで
場 所	広島大学医学部 第5講義室 対面とオン ライン同時のハイブリッド形式
参加人数	対面とオンライン併せて150名

プログラム

13:30—13:35	「はじめに」 広島大学 大学院医系科学研究科 神経薬 理 教授 酒井規雄 先生
13:35—14:15	講演1『アルツハイマー病の制圧に向け て—病態モデルを用いた研究の紹介—』 広島大学 大学院医系科学研究科 細胞分 子薬理学 講師 山崎雄 先生
14:15—14:25	休憩（質問記入（用紙、チャット））
14:25—15:05	講演2『音楽の不思議 —脳科学の視点か ら—』 広島大学 脳・こころ・感性科学研究セン ター 助教 小野健太郎 先生
15:05—15:15	休憩（質問記入・回収）
15:15—15:55	講演3『脳という宇宙にメスをいれる』 広島大学 大学院医系科学研究科 脳神経 外科学 教授 堀江信貴 先生
15:55—16:05	休憩（質問記入・回収）
16:05—16:25	質疑応答（酒井司会）
16:25—16:30	終わりの挨拶 アンケート記入

開催趣旨

21世紀は「脳と心の時代」と言われており、脳科学の重要性は世界共通の認識となっています。公開講座では、これからの脳科学を担う若者やその教育に携わっておられる教師の方々に、最新の知識に触れていただき、脳科学の面白さを体験していただけることを期待しております。

アンケート結果抜粋

- ・音楽は人を元気にするだけでなく治療効果もあることを知った。
- ・音楽がどのように脳に伝わり、身体を動かしたくなるのかがわかった。
- ・カテーテルの手術で多くのことが出来ることを動画から知ることができた。
- ・脳外科の手術は、想像以上に幅が広いことが印象に残った。
- ・APOEの遺伝子の配列の違いだけで認知症のなりやすさが大きく違うことに驚いた。
- ・図、写真、動画でわかりやすく説明して頂いた。

イベントを終えて

今年も広島大学医学部の高大連携公開講座の一環として共催で行った。コロナ禍3年目の開催となり、今年もオンサイトとオンラインのハイブリッドでの開催とした。参加者は、オンサイトが92名オンラインが30名であった。対面での参加が多いことから、コロナ禍も3年目を迎え、大学へ来て対面で講義を受けることの抵抗感はかなりなくなっていることが伺える。また、オンラインのメリットを聞いたところ、やはり自宅から手軽に聞くことができ、内容的にも十分オンラインでも把握できるという回答が得られた。来年以降も、コロナの状況に関わらず、ハイブリッドで開催することが望ましいかと思われる。

講演は、例年通り、3題行った。まず初めに大学病院脳神経内科 山崎雄講師から「アルツハイマー病の制圧に向けて—病態モデルを用いた研究の紹介—」の講演を賜った。ア

ルツハイマー病を高率に発症する遺伝子多型の APOE 多型を応用したマウスモデルから、どのようにしてアルツハイマー病の治療法を編み出すのかご自身の研究の夢とともに語られた。2 番目の講演は、脳・こころ・感性科学研究センターの小野健太郎先生に「音楽の不思議 ―脳科学の視点から―」というタイトルで講演頂いた。普段の生活に身近な音楽がどのように脳に影響を与えているのか、興味深い話をしていただいた。最後に脳神経外科医の堀江信貴教授に「脳という宇宙にメスをいれる」というタイトルの講演をして頂いた。堀江先生の講義は、脳外科、特に専門とされる血管内手術の話が満載で、普段聞くことが出来ない手術の話聴衆は堪能したと思われる。

大学の講義室という普段は来ることが出来ない環境で、バラエティに富んだ脳の研究の最前線の話聞いて、高校生は満足していたように思われた。

参加者数と内訳

上記のようにオンサイトが 92 名、オンラインが 30 名で合計 122 名。

04

玉川大学中高生脳科学教室



講演ポスター画像

開催イベント情報

テーマ	玉川大学中高生脳科学教室
日時	2022年11月6日(日) 9:00—13:00
会場	玉川大学 Human Brain Science Hall (ハイブリッド開催)
主催	玉川大学脳科学研究所・玉川大学工学研究科
代表	坂上雅道

開催時期の選定理由

都内で行われる脳の世紀イベントが比較的少なく、例年を踏襲して教員の多数が対応可能な晩秋を選定した。

集客方法（広報先等）

脳の世紀ホームページ、大学ホームページ、各学校へのDM送付、SNSの利用

プログラム

9:05—10:00	全体講演「効率的な学習のために—脳科学者からの提言」 ブラウン大学・教授 渡邊武郎
10:00—12:30	体験コース(オンライン3テーマ、対面3テーマ) A. 考えることと考えないこと—脳にある2つの意思決定システム(オンライン) B. 神経の活動って何だろう?—神経活動のデータとシミュレーション(オンライン) C. あなたは社会的ジレンマを解決できるか—個人と社会の利益の葛藤(オンライン) D. 脳MRI実験実習(対面) E. AIと君の脳の意思決定を比べよう—強化学習と脳の決断(対面) F. 脳を読み取り脳を活かす—生体信号を使ってロボットを動かしてみよう(対面)

開催趣旨

ポスターに掲載した案内文

玉川大学脳科学研究所は今年も中高生向けの脳科学の体験教室を開催します。玉川大学脳科学研究所は国内でも有数の高次脳機能研究機関として知られ、毎年数十本もの論文を世に送り出すハイレベルな研究所です。当日は、それぞれの研究分野について現役の研究者が直接に紹介し、参加者に体験をしてもらい、質問に答えます。脳科学に興味がある方、将来は研究者になりたいと思う方は、ぜひとも参加してください。内容は、中学卒業程度の知識があることを前提として説明します。特にオンラインプログラムはどこからでもご参加いただけます。

参加者に配布したプログラムにおける主催者挨拶

コロナ禍の中、いろいろ御苦労があるかと思います。その中で、玉川大学脳科学研究所が主催する「中高生脳科学教室2022」にご参加いただき、ありがとうございました。脳は、環境の情報に基づいて最適な行動を選んで実行する臓器です。最適な行動とは何か?多くの場合は、最もうまく生きて行けるようにすることです。栄養のあるものを食べるとか、素敵なパートナーを見つけるとか、他の動物に食べられないとか。ほとんどの動物の行動はこの原則で説明できますが、人間だけは違います。人間は、自分が死んでも子供を生かそうとするし、疲れていてもお年寄りに席をゆずります。このように自分が損をしても他人を助けるような行動傾向のことを向社会性といいます。玉川大学脳科学研究所では、ヒトや動物の神経活動の解析から脳と心の関わり、そしてAIまで様々な研究がおこなわれています。なかでも、多くの研究者が、脳の「選ぶ」という仕組み(意思決定)に関係する研究を行っています。動物を使って意思決定の基本的なメカニズムを調べる研究や、人間で向社会性が起こる仕組みの研究など、今回の体験学習が脳と心について考えるきっかけになれば幸いです。今年は、アメリカブラウン大学の渡邊武郎先生に全体講演

をお願いしました。渡邊先生は、知覚やその学習過程の研究の世界的な権威です。最近では、脳の活動を操作して知覚を変えるという論文も発表しています。

今年も玉川大学脳科学研究所の研究者が、「伝えたいこと」をたくさん抱えて中高生理科教室を開催します。みなさん、どうしたらオンラインでもオンラインでも思いが伝えられるか、一人一人が工夫を凝らして準備しました。ぜひ、楽しんでください。

玉川大学脳科学研究所 所長 坂上雅道

アンケート結果

【感想・意見】抜粋

- 脳の大部分は判明していないことが有名ですが、わかっている部分だけでもとても面白かったです。
- 自分が体験したコース以外にも、面白そうなものがあったので、機会があれば、そちらも体験してみたいと思いました。
- 以前から脳科学に興味はあったのですが、その研究を職業としている方々が何をしているのかは知らなかったもので、実験や分析について知ることができてよかったです。渡邊先生のように、海外で研究をしてみたいとも思いました。
- 今回この教室に参加させていただいた理由が、私自身脳科学というものに興味はあるもののそれがどういったものなのか知識があまりないため、良い学習機会になるかな、と思ったからです。実際に先生方のお話を聞いている中で、脳科学というのは固いものではなく日常的な、私たちの身の回りの生活に大きな関わりがあることがわかり、親しみやすいものとなりました。全体講演では学習の固定化について学び、大人と子供を比較しながらこういった学習方法がどうなのか、というふうに勉強などに活用出来るととても良いお話でした。コースごとにわかれた後は、私はAコースだったので考えることと考えるいことについて学びました。生まれてから今まで生きてきた中で培ってきた経験が直感的に出ることやじっくり物事に対して考え熟慮的に結論を出す、このふたつの対比をしてそれが脳の中でどのような働きをしているのかを学び、実際に自分で考えてみてそれがどういった思考で導き出されたのかを考えるという、普段ではやらないことを体験し、貴重な経験になったと思います。その後も一人一人が持つ道徳的な思考の差異や実験を通して思考の傾向を数値化し、他の人と比べてみる、などこのコースならではの体験ができとても面白かったです。本日は貴重なお話をありがとうございました！（修了証の案内メールを頂けると嬉しいです。）
- MRIについて詳しく知ることができ、とても楽しい体験をすることが出来ました。
- MRIはなかなか見たり触る機会が無いので貴重な機会でした。
- 普段の生活でも活かせそうです。
- 脳は、医療系とよく関連しているイメージがあったのですが、医療は関連している多くの分野のうちのひとつにすぎないくらい、脳が様々な分野において研究されていることを知ることができました。
- より多くのことを、細かいところまで理解したいと思え、今している基本的な勉強の目的を見つけられたようで嬉しいです。
- 鮫島先生のお話、とても興味深かったです。
- 今回、とても意義のある講義や深い体験学習を通して、より良いインスピレーションを受けることができ、さらに向上心が上がりました。この体験学習、およびこの脳科学教室に参加してよかったと心から思います。またハイブリッドでしていただけた点は、海外在住のため、本当にありがたかったです。今後、コロナ収束後もオンラインでのオプションがあるとより参加しやすいと思います。
- これからも僕は脳のリサーチを続けると思います。そのときにわからなくなったら質問をすることがあるかもしれませんが、よろしくお願いします。
- 「脳」と聞くと難しいというイメージがあったのですが、分かりやすく教えていただけたので「脳」にすごく興味

が湧きました。ありがとうございました

- ・最新の研究を見ることができてとても面白かったです。先生方がどんな質問でも優しく答えてくださり、新たな疑問がたくさん湧きました。ありがとうございました。
- ・全体講演で新しい勉強法を見つけることが出来たと思うのでテスト等に活かしていきたいと思います。今回はありがとうございました！
- ・私は以前自分の病気について自由研究で発表したことがあります。その時に MRI について説明したのですが、その時よりも専門的なことを沢山知れました。
- ・とても面白かったです。
- ・特に MRI の部屋がどうして涼しいのかの話が興味深かったです

以下、いずれも 1—5 点の評価（評価者数 26 名（29 名中））

今回のイベントは楽しかったですか？ 平均評価 4.81

今回のイベントはたくさん学べましたか？ 平均評価 4.85

このようなイベントにまた参加したいですか？

平均評価 4.62

イベントを終えて

玉川大学脳科学研究所では「中高生脳科学教室」として、脳科学・神経科学を体験することを主眼とした脳の世紀イベントをハイブリッド形式で開催いたしました。脳科学研究所を代表して坂上雅道所長が挨拶した後、アメリカのブラウン大学で研究しておられる渡邊武郎教授に、「効率的な学習のために—脳科学者からの提言—」というテーマで基調講演していただきました。アメリカに渡って感じた日米の研究の進め方に関する違いやカルチャーショックを感じたエピソードなどが導入として紹介され、その後の研究内容に関するご説明も、これまでの研究結果から、学習の効率を高めるためにどのような工夫が可能か？という、高校生が興味を持ちやすいテーマに繋がっており、参加者は皆、興味津々の様子でした。さらに国を超えてグローバルに活躍することの重要性について、考えはじめた生徒も多かった

ようです。講演後には中高生ならではの様々な質問にも丁寧に答えていただきました。つづく体験学習は 6 つのコースに分かれて行われました。A コースから C コースの 3 コースはオンラインで開催され、残りの D コースから F コースの 3 コースについては、本年竣工した玉川大学脳科学研究所ヒューマンブレインサイエンスホールの施設を活用して対面で行われました。体験学習のあと、再集合した生徒たちは互いのコースの成果を紹介しあった後、講師陣がまとめのコメントを述べ、修了証を授与（オンラインの参加者には後日郵送）して閉会となりました。ハイブリッド形式の実施について、主催者サイドとしては、技術的な苦労はありましたが、他方で、首都圏近郊の中高生だけではなく、九州や米国在住の生徒の熱心な参加も得られ、新しい形の世界脳週間イベントのモデルが作れたようにも感じます。アンケートのご意見も参考にして、来年度もさらに発展した形で開催する予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

報道関係による告知【掲載された新聞などのメディア名】

玉川大学・玉川学園広報機関紙『全人』2023 年 1 月号

参加者数と内訳

合計 29 名 中 1:2 名、中 2:1 名、中 3:4 名、

高 1:10 名、高 2:7 名、高 3:2 名

参加者の男女比 男:女 = 3:7

対面参加の中高校生 17 名、オンライン参加の中高校生 12 名

他に保護者等引率者数名

当日の会場風景



05

世界脳週間2022 (東京都医学研) 講演会

開催イベント情報

テーマ	「意欲(やる気)」を生み出す脳の仕組み
日時	2022年11月28日(月曜日)
会場	東京学芸大学附属高等学校
主催	公益財団法人東京都医学総合研究所
代表	理事長 田中啓二

開催時期の選定理由

開催校との日程調整の結果

集客方法(広報先等)

授業の一環として開催したため、関係者以外の方々が開催校に入校して聴講することが難しいことから、広報はせず。

プログラム

14:20-15:10 (質疑応答含む)	講演「意欲(やる気)」を生み出す脳の仕組み 公益財団法人 東京都医学総合研究所脳機能 再建プロジェクト 研究員 菅原翔
-------------------------	---

イベントを終えて(主催者側の感想或いは総括)

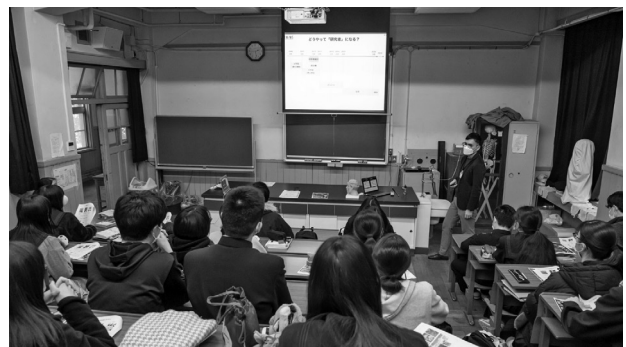
11月28日(月)、公益財団法人東京都医学総合研究所では、東京学芸大学附属高等学校において「『意欲(やる気)』を生み出す脳の仕組み」と題し「世界脳週間2022講演会」を開催し、脳機能再建プロジェクトの菅原翔研究員がお話ししました。菅原研究員は、動機づけ・報酬、運動学習・運動制御、脳機能イメージングについて研究しています。このうち、動機づけは、例えば、誰かに「話したい」「近づきたい」といった行動を駆り立てる力です。この力はどこから生まれるのかを調べたラットの自己電気刺激実験では、ラットがレバーを押すと脳内に埋め込まれた電極に弱い電気刺激が短時間起こるように設定されました。電極の埋め込み位置を変えると、ある脳の場所が刺激される場合にだけ、ラットは好んでレバーを押し続けることがわかりました。現在では、このラットがレバーを押し続けることになった部位は側坐核と考えられています。

また、ヒトの脳活動を観察する方法として、菅原研究員が使っている機能的磁気共鳴画像法(fMRI)について説明しました。ヒトの意欲を調べるため、合図に合わせて素早くレバーを握る課題を被験者に課しながらfMRI計測を行い、速く反応した時に貰える賞金を多・少・なしと変えたそうです。その結果、多くの賞金が貰える条件では反応が速くなるだけでなく、握力も強くなることがわかったそうです。多くの賞金が貰えると考えて反応する時には、側坐核や腹側中脳が強く活動していることをfMRI計測によって見出したとのことでした。

さらに、脳深部の活動を変化させる治療法として、パーキンソン病、疼痛、強迫性障害やうつ病を対象とした脳深部刺激療法があります。うつ病を治療する際は、投薬、心理療法や電気痙攣療法が中心ですが、脳深部を刺激することにより、興味や喜びの減退や、易疲労性または気力減退を改善することを目指す研究が進んできているとご紹介しました。

今回の講演会は東京学芸大学附属高等学校において生物を選択している高校生が対象でしたが、難しい話であるにもかかわらず、ちょうど授業で脳について勉強した後だったこともあり、みなさん熱心に聴講していました。

当日の会場風景



講演の様子

参加者数と内訳

20名(高校3年生)

06

世界脳週間2022
東京医科歯科大学講演会

講演ポスター画像

開催イベント情報

テーマ	世界脳週間 2022 東京医科歯科大学講演会
日時	2023年1月7日(土) 16:00—18:30
会場	Zoom (オンライン)
主催	東京医科歯科大学・脳統合機能研究センター / お茶の水ニューロサイエンス協会
代表	高橋英彦 (脳統合機能研究センター・センター長 / 大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野・教授)
対象	高校生
参加費	無料

開催時期の選定理由

本学の高大連携校から意見を伺い、高校生が参加しやすいように土曜日夕方とした。

集客方法 (広報先等)

- ① 医科歯科大の HP と Facebook で案内
- ② 医科歯科大の説明会に参加された高校の先生にメールで案内
- ③ 昨年度の参加者にメールで案内

プログラム

16:00—16:05	開会挨拶: 高橋英彦 教授 (脳統合機能研究センター センター長 / 大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野)
16:05—17:00	講演 1「認知症を科学する」 岡澤均 教授 (難治疾患研究所 神経病理学分野)
17:00—17:55	講演 2「精神疾患の分子病態の解明」 塩飽裕紀 准教授 (大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野)
17:55—18:25	全体討論
18:25—18:30	閉会挨拶: 味岡逸樹 准教授 (脳統合機能研究センター)

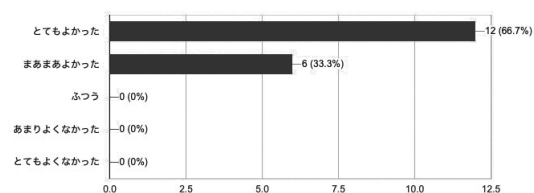
開催趣旨

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に呼びかける世界的規模のキャンペーンです。我が国でも、全国の大学・研究機関でイベントが開催されます。東京医科歯科大学では、この趣旨に沿って、今回は高校生を対象に、本学の新進気鋭の教授らによる講義を企画いたしました。脳科学研究の将来の担い手となる皆さまに、ぜひ積極的に参加していただければ幸いです。

アンケート結果

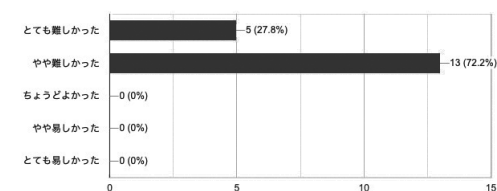
イベント全般に関して

18 responses



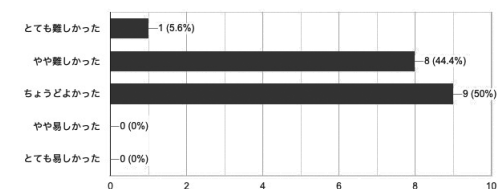
講義の内容に関して (認知症を科学する: 岡澤先生)

18 responses



講義の内容に関して (精神疾患の分子病態の解明: 塩飽先生)

18 responses



岡澤先生の講義に関する質問やコメント

- ・ 脳に関することは、まだ未知なことがたくさんあり科学技術が発達する現代ですら研究を重ねても上手くいかないことも多いのだなと思いました。
- ・ 先生のお話を通じて、医学、また科学は日々進歩し続けていて、それでもまだ今日の私たちには分からない事が本当にたくさんあるんだなと改めて実感しました。また、スライドの中では英語表記のものがたくさんあったので、しっかり英語の勉強も進めていこうと強く思いました。大変興味深いお話を、お忙しい中本当にありがとうございました。
- ・ 私には少し難しかったのですが、科学とは何かから始まり、何を学ぶべきか、とても勉強になりました。
- ・ 私の祖母が前頭側頭型認知症だったので、認知症について知りたいことが沢山あったのですが、科学的な側面で病気を見ていくことの面白さを知ることが出来て大変良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・ 今までの仮説が違うことがあるということや、認知症には他にも様々な原因があるということがよくわかりました。祖母が認知症なのですが、認知症の原因究明と治療法の開発が進んでいるということがわかって、嬉しく思いました。
- ・ 先生の講義に関する質問なのですが、よく本やネットなどで認知症を予防する食べ物として魚などが挙げられていますが、それらの食べ物の成分はどのように作用して認知症を防ぐのかを教えてください。よろしくお願いします。
- ・ 科学的な視点から、最先端の認知症の研究についてまでお話を伺う事ができて、とても有意義な時間となりました。脳のメカニズムについて興味があり、解明されていない事が多かった認知症の薬について丁寧にご説明くださり、理解が深まりました。私の親戚にも認知症の方いて、自分にとって身近にある病気なので、これからも更に深く調べていけたらと思います。

塩飽先生の講義に関する質問やコメント

- ・ 精神的な病気には、人間の体の中のあらゆる成分が必要になってくる、もしくは欠けていて起こるものということを知ることができて、見方が変わりました。
- ・ 精神の病気でも生物学的なアプローチをよくすることによって驚きました。マウスによっても精神の病気について研究できるということにも驚きました。お話の中にもありましたが、私もこれまで精神の病気にはカウンセリングとかがメインなんだろうと思っていた1人だったので、いろいろ学ぶことができたと思います。お忙しい中興味深い講義をありがとうございました。
- ・ 最初に私たちの立場になって色々なお話をしてくださり、少し肩の力が抜けたおかげで、講義が聞きやすくなりました。貴重なお話ありがとうございました。
- ・ 精神科に対するイメージが変わる大変良い機会になりました。私の中で診療のイメージの強かった科なのですが、研究の道もあるということで、将来選ぶかもしれない科の候補としてかなり有力になりました。ありがとうございました。
- ・ 気になっていたことに加えて深く知れました。
- ・ 前から精神と脳の繋がりが気になっていたのですが、神経を介した繋がりがわかって興味深く、前よりもっと脳と心について関心が気になるようになりました。
- ・ うつ病などの精神疾患は治せないものだと思っていたけど、先生の講義を聞いてそれぞれの病名に治療方針が確立していて現在の医療の進歩を実感しました。
- ・ 将来は今の所、外科医を目指しているのですが、心理学にもとても興味があったので、今日のお話を伺えてとても良かったです。統合失調症など、心の病気も脳のメカニズムによって治療することが出来ると知って驚きました。母がカウンセラーで、話を聞くことが治療のメインだと思っていたので、先生のお話は新鮮で、もっと脳科学と心理学の繋がりを知りたいと思いました。

全体討論に関するコメント

- ・私以外にも多くの学生が医師を目指して頑張っていること、私よりも医学について勉強を進めている人がいることを他校の生徒も含め知ることができて、もっと勉強に精進しようと思いました。
- ・医者志望なので学校から案内が来た時申し込んでみようかなと思い、今回の講義に参加させていただきました。小さい頃からずっと医者になりたいという夢は変わらず、憧れの職業なのですが、研究医の先生方の講義・お話を聞くというのは初めての経験であったので、大変興味深く、楽しかったです。そして、医者になりたいという思いはさらに強くなったように感じています。2025 年度入試で医科歯科に合格できるよう、日々努力を重ねていきます。改めまして、お忙しい中大変貴重で興味深いお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。
- ・このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。実は、高3 受験生です。合格して、春から先生方とお目にかかれますように頑張ります。よろしく願いいたします。
- ・初めて聞く医学用語などが多く複雑だったけれど、先生達の講義はとても分かりやすく面白かったです。今回の講義でさらに医学に興味をもつことができました。ありがとうございました。
- ・初めて医科歯科大学のイベントに参加して、全体討論で様々な質問や、先生方の受け答えを伺って、講義にプラスしてより知識が深まりました。講義に関連したことから、大卒の科学の意義など、自分の視野が広がるいい機会となりました。

イベントを終えて

東京医科歯科大学は4 回目のイベント参加となりました。今年度もオンライン講義形式のイベントとし、本学神経病理学分野の岡澤教授と、精神行動医科学分野の塩飽准教授にご講演いただきました。岡澤先生には「認知症を科学する」というタイトルでご講演いただき、塩飽先生には「精神疾患の分子病態の解明」というタイトルでご講演いただきました。質疑応答では例年通り最初の質問が出るまでに時間がかかりましたが、1 つの質問をきっかけに多くの質問をいただきました。昨年度までとは異なり、今年度は脳に興味がある高校生というよりは、医科歯科大の医学科に入学希望する生徒が多かったように感じました。来年度以降もオンライン形式とするかどうかは未定ですが、多くの方に参加していただくという意味では、オンライン形式を継続することも選択肢の1 つかもしれません。

参加者数と内訳

合計 74 名【内訳：高校生 74 名】

07

世界脳週間2022

@国立精神・神経医療研究センター



講演ポスター画像

開催イベント情報

テーマ	「世界脳週間 2022 @ NCNP」		
日時	2023 年 2 月 18 日 (土) 14:00—16:00		
会場	オンライン開催	15:25—	
主催	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター	15:30—	
代表	理事長 中込和幸		

開催時期の選定理由

世界脳週間 2021 @ NCNP 開催 (2022/2/26 開催) から 1 年程度経つ 2023 年冬を開催時期とし、前年度参加した高等学校の先生にアンケートを取り学校行事と重ならない 2 月 18 日を開催日とした。また 2023 年には COVID-19 の影響が収まって現地開催も可能となっていることを期待したが、病院が併設された立地であることを考え、オンライン開催とした。

集客方法 (広報先等)

- ① NCNP ホームページ、Twitter
- ② 脳の世紀推進会議 ホームページ
- ③ 科学技術振興機構次世代人材育成事業「Super Science High Schools」ヘチラシ配布
- ④ 都内高校ヘチラシ配布 (2 回)

プログラム

- 14:00— 開会挨拶 岩坪威 NCNP 神経研究所 所長
- 14:05— 講演 (1) 一戸紀孝 NCNP 微細構造研究部 部長
「自閉症研究の最前線 (新世界ザルモデル)」
- 14:30— 講演 (2) 竹田知良 NCNP 情報管理・解析部 室長
「我が国初のメンタルヘルスプラットフォームの全国実装 —メンタルウェルビーイングの高い社会実現に向けて—」
- 14:55— パネルディスカッション「脳研究者の夢」
パネラー：疾病研究第六部 井上由紀子

疾病研究第五部 氏家悠佳

疾病研究第四部 間野達雄

IBIC 先進脳画像研究部 若林憲孝

写真撮影・事務連絡

研究紹介

- ① 臨床検査部・ブレインバンク「実際に脳を見てみよう」
- ② IBIC 先進脳画像研究部「脳画像研究で何が分かるの？ヒトの正常な脳機能や病気の症状を脳全体で理解する」
- ③ 行動医学研究部「災害ニュースはカラダに悪い？」
- ④ 疾病研究第四部「神経変性疾患におけるタンパク質蓄積と分解のメカニズム」
- ⑤ 疾病研究第五部「神経突起構造のダイナミズム—神経系の形成、記憶・学習、老化・病気と神経細胞形態」
- ⑥ 精神薬理研究部「こころの仕組みを理解したい！—若手研究者の毎日—」
- ⑦ 病態生化学研究部「脳神経系の発達とその障害によりもたらされる脳疾患の研究」
- ⑧ 遺伝子疾患治療研究部「脳・神経・筋疾患の克服を目指す新たな遺伝子治療法の研究」
- ⑨ 神経薬理研究部「脳の神経回路の修復機構」

開催趣旨 (ポスター等に掲載した開催趣旨文等)

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に訴える世界的キャンペーンです。我が国もこの意義に賛同し、2000 年より「脳の世紀推進会議」が主体となって高校生を対象として、最先端の脳科学研究を紹介するイベントを開催してきました。国立精神・神経医療研究センターでは、「世界脳週間」の趣旨に沿って、未来の脳科学を担う高校生に当センターの脳科学研究を紹介します。

アンケート結果

1 講演

ちょうどいい内容だった13名、難しかった6名、もう少し深い内容を知りたかった1名

- ・学校で習った内容と繋がる部分も多くわかりやすい説明でした
- ・今まで興味を示してこなかった内容だったので、脳と言ってもたくさんの分野があるのだと再認識しました
- ・脳科学を通して、日本の課題について考えるということにとっても興味を持ちました
- ・具体的にどのような研究が行われているのか知れてとても貴重な機会だった
- ・予備知識が無い自分にも、実験の手法や結果の意味を理解できるような内容でとても面白かった
- ・脳と心（精神）は密接に関わっているのだと思った。
- ・事前準備のためにレジュメが欲しかったです

2 パネルディスカッション

参考になった18名、参考にならなかった0名、もう少し深い内容を知りたかった2名

- ・今の職業にたどり着くまでの道のりは人によってさまざまであるため、こういう道もあるのだなと知る機会になった
- ・研究につくまでの過程や、研究についた後での苦勞について、実際に体験したことを聞けて良かったです
- ・沢山の先生方のお話が聞けて、特に育児もしながら研究を続けているというのが驚きでした
- ・脳科学を学ぶ人が少ない中で、学んでいる人の経験を知れる良い機会だった
- ・いろいろな立場の方の話を聞くことで研究者の形というものが少し見えたように思った
- ・もう少し、パネラーの方々の高校生時代の話が聞きたかったです。特に現職に就こうと思った経緯などを知りたいです

3 今回のイベント参加は、ご自身の将来に役立つと思いますか？どのように役立てたいですか？

- ・脳科学に興味があり参加し、脳科学という漠然とした枠組みから具体的にやりたいものがあるのか、それはどういう分野なのかを今回参加したことで考えることができた。自分の将来の進路を決める上で役立てたい
- ・とても役立つと思います。より、将来研究したいという気持ちが高まりました。また、データを実際に見ることの大切さを学んだので、今後学校の課題等で論文を書いたりするときには、データや数値をたくさん参考にしながら取り組みたいです
- ・脳科学、脳神経の研究についてなんとなくのイメージがついたので、現時点で医学の道に興味があるのですが、今後の進路選択の際に思い浮かぶ選択肢が増えるという点で役立つと思います
- ・精神疾患などは自分から遠い存在だと感じていたが、今回のイベントを通じてそういえば自分の好きな脳が原因なんだと再確認出来た。
- ・モチベーションの維持として、こういう研究者になりたいというロールモデルが見つかったことは今後大いに役立つと思います

イベントを終えて

国立精神・神経医療研究センターは第一回の世界脳週間イベントから参加しており、COVID-19の収束が見込めない中、今年もオンラインで開催することが出来ました。今年度は告知方法として、例年の都内高校への周知に加え、新たにJSTに協力をお願いしてSSH高校へ案内を送付しました。また脳の世紀推進会議やNCNPのホームページなどwebによる宣伝も行いました。そのためこれまでより多くの15の都府県35の高校から72名の参加申し込み者を得ることが出来、より多くの「脳」に興味を持つ高校生に活動を知っていただけたと感じています。また、参加高校生にインセンティブとなるものと良い、という意見に応え、新たにNCNP中込理事長からの「参加証明書」を発行するこ

としました。自宅学習が続いた高校生にとって、世界脳週間 2022 への参加は、自主的な課外活動としてアピールすることができ、今後のイベントでも続けて欲しいと思います。

今年度は「講演」において、精神疾患研究の基礎研究者の一戸部長と臨床研究者の竹田室長に最先端のご研究の講演をいただきました。同じ脳疾患への異なるアプローチを知ることで、脳研究の幅の広さを理解していただけたと思われ、アンケートでも多数から「ちょうど良い内容だった」と回答をいただきました。また、例年アンケートで脳研究者のキャリアパスに関する質問があったことから、今年度新たに「パネルディスカッション」を設け、パネラーとして NCNP の若手研究者に登壇頂き、そのキャリアパスや研究への興味を語って頂きました。参加高校生に「脳研究者」を身近に感じていただけた、アンケートでも多数が「参考になった」と回答をいただきました。次年度は現地開催が可能となり、体験型の研究紹介も開催されることを願います。

最後に、企画・準備・運営・実施にあたり、多くの協力を頂きました脳の世紀推進会議事務局、NCNP の皆さまに心から感謝申し上げます。

当日の会場風景等



講演の様子

報道関係による告知がある場合、掲載された新聞などのメディア名現時点で特にありませんが、当センターの広報誌に掲載予定です。

参加者数と内訳

申し込み者数 72 名 (35 高校)

参加者数 60 名程度

08

世界脳週間2022 京都講演会



講演ポスター画像

開催イベント情報

テーマ	脳を知り、再生に挑む！
日時	2023年3月10日（金）14:00—15:30
会場	東山高等学校（京都市左京区永観堂51）
主催	京都神経科学グループ
代表	河田光博（京都府立医科大学名誉教授） 櫻井芳雄（同志社大学大学院脳科学研究科教授）

開催時期の選定理由

2021年度は7月14日に伊佐正教授（京都大学大学院医学研究科）に講演いただいたが、2022年度においては、同時期は東山高等学校のさまざまな行事と重なり、また2022年度講演予定者の金子奈穂子教授（同志社大学大学院脳科学研究科）のスケジュールを検討し、年度末ではあるが、3月10日が最適な時期と判断し、選定した。なお、金子教授のご厚意によって、講演会の前（2023年1月19日）に金子研究室での施設見学と脳の観察などを体験した（末尾に記載）。

集客方法（広報先等）

関係者の施設におけるポスター掲示、世界脳週間や開催校でのホームページならびに校内案内によって広報を行った。

プログラム

14:00—	生徒による開会挨拶 挨拶・趣旨説明（河田）、金子先生の紹介（櫻井）
14:10—	金子先生 講演「脳を知り、再生に挑む！」
15:10—	質疑応答
15:25—	生徒からの謝辞、花束贈呈
15:30—	生徒による閉会挨拶

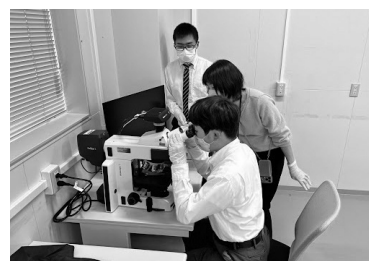
開催趣旨（ポスター等に掲載した開催趣旨文等）

ポスターに掲載した案内文及び参加者に配布したプログラムにおける主催者挨拶はポスター参照のこと

2023年1月19日に東山高校生9名が金子研究室で行った内容：

緑色蛍光タンパク質、赤色蛍光タンパク質を脳内の特定の細胞に発現させた遺伝子改変マウスの固定脳を準備、以下の実験が金子教授の指導の下に行われた。

- ① ビブラトームを用いて50μm厚の脳切片を作製
- ② スライドガラスに作製した脳切片を並べて封入剤で封入し、各自プレパラートを作製
- ③ 各自プレパラートを蛍光顕微鏡で観察、さらに一部の脳切片を共焦点顕微鏡で観察・撮像
- ④ 培養中の神経細胞を倒立顕微鏡で観察（以下写真添付）



参加者数と内訳

昨年度の実績と同様、100名以上（東山高校の1、2年生の約100名、京都女子高校数名、その他の高校から数名、東山高校教員数名）が対面形式での講演会に参加。

東北大学サイエンスカフェ

テーマ	メダカのオスはどのようにメスの気を引くのか？
日時	2023年3月21日（火）、14:00—15:30
会場	東北大学片平キャンパス生命科学プロジェクト総合研究棟、仙台
主催	東北大学脳科学センター
連絡担当者	竹内秀明（東北大学大学院生命科学研究科脳生命統御科学専攻教授）

「世界脳週間」とは、脳科学研究の重要性を一般に知ってもらうことを目的として世界的規模でおこなわれるキャンペーンです。東北大学脳科学センターではこれまで中学生、高校生を対象に「脳科学オリンピック」を開催してきました。2022年度は東北大学脳科学センターの教員と科学に興味がある中学生、高校生や一般の方々との交流を目的としてサイエンスカフェを開催いたします。当サイエンスカフェではメダカの行動に関する最先端の研究成果をわかりやすく解説します。Q&Aの時間をとって研究者とゆっくりと交流する時間とります。親子での参加歓迎。

2023年3月21日(火)

14:00—15:30 竹内秀明教授による講演と質疑応答
(対面、サイエンスカフェ形式)

10 組



10

世界脳週間2022 新潟講演会 “見てみようヒトの脳と心”

開催イベント情報

テーマ	見てみようヒトの脳と心
日時	2023年3月24日（金）15:00—16:30
会場	Zoom
主催	新潟大学脳研究所
代表	脳研究所長 小野寺理

開催時期の選定理由

対象が主に高校生のため、高校の春休みに実施している

集客方法（広報先等）

- ① 例年参加いただいている高校に、本年度は3校を加えて案内を送付。
- ② 脳研究所ホームページに開催情報を掲載。

プログラム

I. 開会挨拶

15:00—15:05

II. 講演 / ヒトの脳の不思議

- 15:05—16:15
- 1) 神経のネットワーク
— 視る、操る、作り直す —
上野将紀
(脳の神経回路網はどうつながり働くか、脳の病気で再建できるか、お話しします)
 - 2) Seeing is believing
島田斉
(生きているヒトの脳内環境が加齢や病気でどのように変化しているのか、画像で可視化する研究を紹介します)

III. 質疑応答・閉会

16:15—16:30

参加者数と内訳

約 100 名

世界脳週間2022を終えて

日本において2000年からスタートした「世界脳週間」行事も22年目を迎えた。ただ、2020年3月ごろより世界中に蔓延したコロナ禍により2020年度と2021年度の行事は大きな影響を受け一部地域では中止或いは延期とせざるを得なかった。しかしながら、2022年度は関係者の努力により種々の工夫のもと全国10か所で多彩なイベントが開催された。広島会場のように感染防止の対策を取りながらの対面講演をオンラインでもライブ放映するハイブリッド講演会をおこなったところや玉川大学のようにオンライン配信の講演に加えて体験学習会を企画したところなど、多様な形式のもとで多数の若者が参加したことは大変心強いことであった。多くの地区では事後アンケート調査を行ったが、多数の好意的反応を得た。例えば、「脳科学という学問に興味がわきました。これからの進路の参考にしたいと思います。」というコメントなど、この世界脳週間行事の意義を改めて確認し来年度以降も続行、さらに発展させるという思いを強くした。

最後に、ボランティアとして協力していただいた各地の実行委員会のメンバー、講演をしていただいた講師の先生方、種々標本のデモンストレーションやラボツアーを実施していただいた研究者の方々、及び財政的な支援をいただいた賛助会員の方々に厚くお礼申し上げます。

主催者 NPO法人「脳の世紀推進会議」理事長

津本忠治



事 務 局

135-0063 東京都江東区有明 3-6-11
東京ファッションタウンビル東館 9 階

NPO法人 脳の世紀推進会議

TEL: 03-3570-6072 FAX: 03-5520-8820

E-mail: brain@activenet-tv.jp

<https://www.braincentury.org/>

発行日 2023 年 3 月 31 日